

製品名: IRF-3 (リン酸化 Ser386) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04869**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	48-55kDa

抗原情報

遺伝子名	IRF3
別名	IRF3; Interferon regulatory factor 3; IRF-3
遺伝子 ID	3661.0
SwissProt ID	Q14653
免疫原	抗血清は、ヒト IRF-3 の Ser386 リン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 352-401

背景

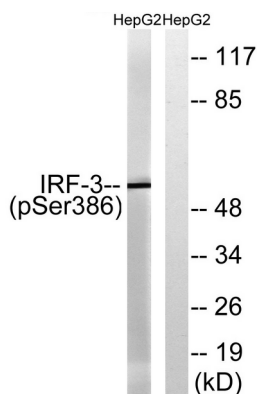
この遺伝子は、インターフェロン制御転写因子 (IRF) ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は不

活性な細胞質型で存在し、セリン / スレオニンリン酸化を受けて CREBBP と複合体を形成します。この複合体は核に移行し、インターフェロン α および β 、ならびに他のインターフェロン誘導性遺伝子の転写を活性化します。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011 年 11 月]、機能: インターフェロン刺激応答エレメント (ISRE) プロモーター活性化を媒介します。抗ウイルス活性の分子スイッチとして機能します。ウイルス感染の過程で生成される dsRNA は、IRF3 の C 末端セリン / スレオニンクラスターのリン酸化を引き起こします。これにより構造変化が誘発され、二量体化、核局在化、および CREB 結合タンパク質 (CREBBP) との会合が起こり、dsRNA 活性化因子 1 (DRAF1) が形成されます。この複合体は、ISRE の制御下にある遺伝子の転写を活性化します。この複合体は、IFN- α プロモーター上の IE 領域、IFN- β プロモーター上の PRDIII 領域にそれぞれ結合します。IRF-3 には転写活性化ドメインはありません。PTM: 多くのセリン残基が恒常的にリン酸化されています。C 末端のセリン / スレオニン クラスターは、IKBKE および TBK1 による誘導に応じてリン酸化されます。Ser-385 および Ser-386 は、誘導に応じて特異的にリン酸化される可能性があります。別のモデルでは、396 から 405 の間の 5 つのセリン / スレオニン残基がウイルス感染に応じてリン酸化されると提唱されています。IRF3 のリン酸化とそれに続く活性化は、ワクシニアウイルスタンパク質 E3 によって阻害されます。類似性: IRF ファミリーに属します。類似性: 1 つのトリプトファンペンタッドリピート DNA 結合ドメインを含みます。細胞内局在: 細胞質と核の間を往復し、主に輸送されます。活性化されると、IRF3 は CREBBP と相互作用し、細胞質への輸送を阻害します。サブユニット: ホモ二量体。リン酸化誘導性。CREBBP と相互作用します。MAVS と相互作用する可能性があります。IKBKE および TBK1 と相互作用します。TICAM1 および TICAM2 と相互作用します。ロタウイルス A の NSP1 と (C 末端を介して) 相互作用します。この相互作用は、IRF3 のプロテアソーム依存性分解を引き起こします。組織特異性: 様々な組織で恒常的に発現します。、

研究分野

Toll_Like;RIG-I 様受容体;細胞質 DNA 感知経路;

画像データ



EGF 200 ng/ml 30 μ L で処理した HepG2 細胞ライセートの IRF-3 (リン酸化 Ser386) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。